

梅毒の疫学パラメータ

- 病原体：梅毒トレポネーマを原因とする細菌感染症。
- 感染経路：主に性的接触 潜伏期間：3～6週間程度
- 症状：侵入箇所初期硬結や硬性下疳がみられ（Ⅰ期顕症梅毒）、いずれも無痛性であることが特徴。その後数週間～数カ月間を経過すると血行性に全身へ移行し、全身の皮膚や粘膜に発疹がみられる（Ⅱ期顕症梅毒）。発疹は多岐にわたるが、丘疹性梅毒疹、梅毒性乾癬、バラ疹などが頻度的には多く認められる（Ⅰ期とⅡ期の梅毒を早期顕症梅毒）Ⅰ期の症状は放置していても2～3週間で消退し、数カ月後にⅡ期の皮膚粘膜病変が出現するまでは無症状となる。無治療の場合、感染後数年～数十年後に、ゴム腫、心血管症状、神経症状などの晩期顕症梅毒を引き起こすことがある。
- 妊婦が感染すると胎盤を通じて胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。母乳による母子感染は通常成立しない。先天梅毒では、生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎などを認める早期先天梅毒と、乳幼児期は症状を呈さず、学童期以降Hutchinson3徴候（実質性角膜炎、感音性難聴、Hutchinson歯）を呈する晩期先天梅毒がある。

引用：梅毒(IASR Vol. 41 p1-3: 2020年1月号)

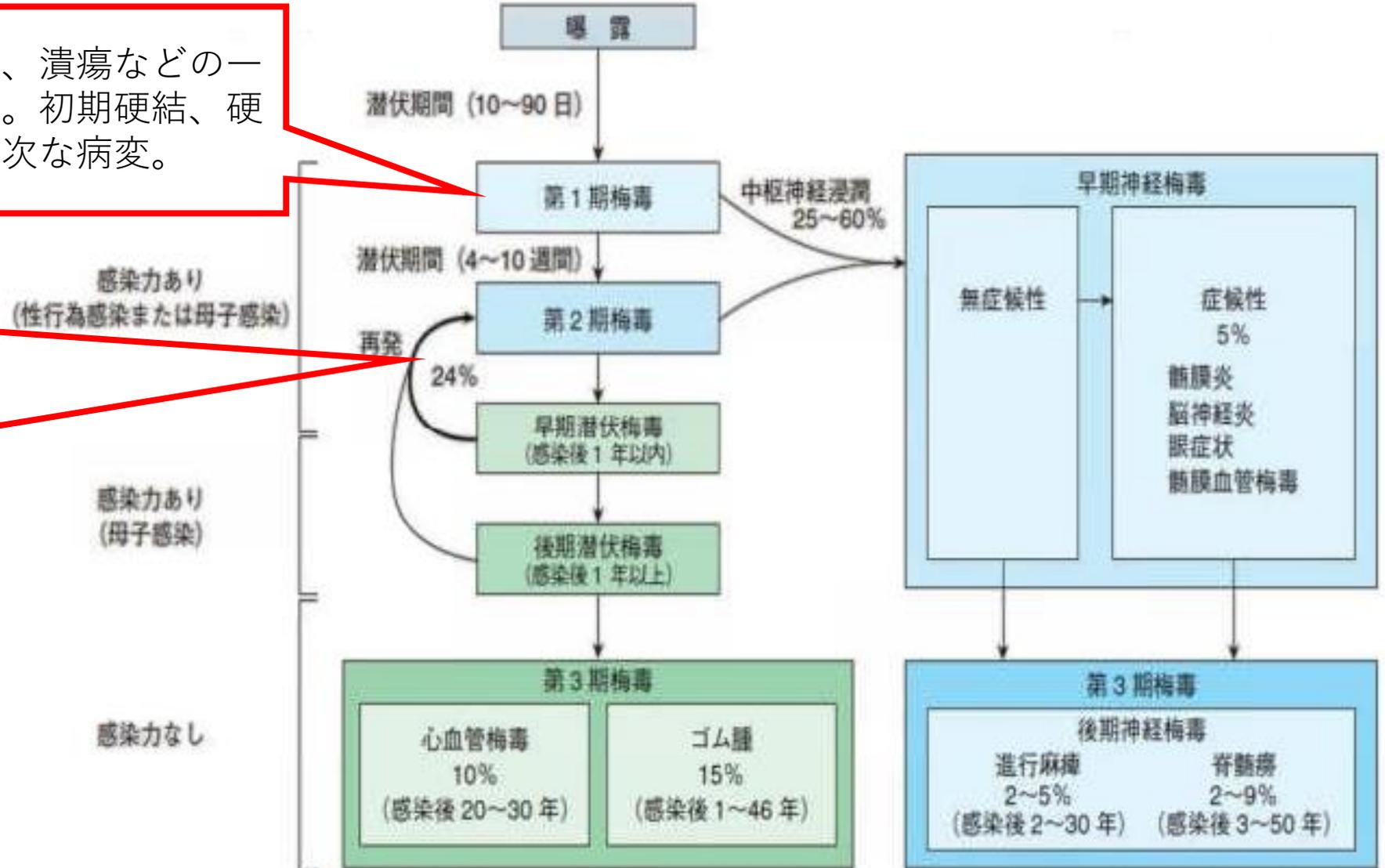
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-iasrtpc/9342-479t.html>

病型分類

図2. 免疫応答正常者における「梅毒」の自然経過

侵入門戸に丘疹、びらん、潰瘍などの一次病変のある活動性梅毒。初期硬結、硬性下疳は典型的な一次病変。

紅斑、丘疹、脱毛斑、肉芽腫などの二次病変のある活動性梅毒。梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマは典型的な皮膚の二次病変。他、あらゆる臓器の病変（多発性リンパ節腫脹等）。





口唇部の 硬性下疳



(日本性感染症学会作成リーフレットより抜粋)



咽頭粘膜斑

梅毒性口角炎

(日本性感染症学会 ガイドライン2016 より引用)

岡山市における梅毒患者の調査から分かること

★男性

- ・ 全国と比べ、無症状者の割合が低く、Ⅰ期割合が高い
 - ・ 女性に比べ、梅毒を疑っていない人の割合が高い
- ⇒ 症状があっても梅毒を疑っておらず、受診して発覚する可能性がある

★女性

- ・ 梅毒を疑って検査を受けた人は、Ⅱ期が多い
 - ・ 風俗店従事の感染と、パートナー感染において病型の差はない
- ⇒ 性交渉相手が梅毒の自覚がない、又は梅毒であることをパートナーから伝えられていない可能性あり、症状が出てから受診する人が多い

⇒梅毒を疑うために、まずは梅毒の症状を周知すること、風俗利用や不特定多数との性交渉は梅毒感染のリスクがあること、梅毒を疑った際は早期に受診をすることを市民に向けて普及啓発していく。

⇒陽性診断後はパートナーへの検査・受診勧奨・治療のご検討をお願いします。

先天梅毒を防ぐために！ 妊婦さんの梅毒症例にご注意ください



胎盤が完成する妊娠4 カ月以降、
特に妊娠後半にリスクが
高くなる。

梅毒感染妊婦が無治療の場合には、40%におよぶ児が死産または新生児期に死亡する可能性がある

(IASR Vol.44 p195-197 : 2023年12月号
梅毒合併妊婦に対する治療と先天梅毒の現状 <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/pathogens/vol44/526/526r06.html>)

妊娠初期の健診でのスクリーニング検査では陰性であり、妊娠中に早期梅毒症状が出たが、診断に至らず、未治療で先天梅毒が発生した症例報告複数あり。

(IASR Vol. 39 p205-206: 2018年11月号
先天梅毒児の臨床像および母親の背景情報に関する研究報告 (2016~2017年) <https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-iasrd/8437-465d03.html>)

先天梅毒のリスク者分析

岡山市：2019年-2023年 (n=11)

届出時の妊娠週数	年代	疾病分類	風俗従事歴 (直近6か月以内)	特記
5週	10代	I 期 (初期硬結)	不明	
8週	10代	無症状	無	
9週	20代前半	無症状	不明	
12週	20代前半	無症状	不明	子宮内胎児死亡
12週	20代前半	無症状	無	
13週	20代前半	I 期 (初期硬結)	無	
13週	30代前半	無症状	無	
16週	20代後半	無症状	不明	
19週	20代前半	無症状	無	
29週	20代前半	無症状	有	24週初診。29週で出産し、その後梅毒届出あり。
34週	20代後半	II 期 (バラ疹)	無	

先天梅毒のリスク者分析

岡山市：前回提示(2023.8)-2024年 (n=9)

届出時の妊娠週数	年代	疾病分類	風俗店従事歴 (直近6カ月以内)	特記
5週	10代	無症状	有	中絶手術実施
7週	20代前半	無症状	無	中絶手術実施
10週	30代前半	無症状	不明	中絶手術実施
20週	20代前半	Ⅱ期 (扁平コンジローマ)	無	
推定20週	30代前半	Ⅱ期 (バラ疹)	不明	流産
21週	20代後半	無症状	無	
28週	20代前半	Ⅱ期 (バラ疹)	有	
29週	20代前半	Ⅱ期 (バラ疹、硬性下疳)	有	
35週	20代前半	Ⅱ期 (バラ疹)	不明	帝王切開前の術前検査で判明

先天梅毒のリスク者分析

岡山市：2025年 (n=10)

届出時の 妊娠週数	年代	疾病分類	風俗店従事歴 (直近6ヶ月以内)	特記
4週	20代後半	無症状	無	
5週	20代後半	無症状	無	
8週	10代	Ⅱ期 (バラ疹)	無	
9週	20代前半	無症状	無	中絶手術実施
9週	20代後半	無症状	無	中絶手術実施
9週	30代後半	Ⅱ期 (バラ疹)	無	
13週	20代後半	無症状	有	中絶手術実施
16週	20代前半	無症状	不明	
18週	20代前半	無症状	無	
妊娠後期	20代前半	Ⅱ期 (バラ疹)	無	

妊娠初期の梅毒血清反応検査で陰性の場合でも、妊娠中の症状出現やパートナーが梅毒になり性的接触が疑われる場合は、追加検査の検討を。